

ものづくり製品（試作）開発等支援補助金交付申請書

平成 年 月 日

(あて先) (公財) 南信州・飯田産業センター理事長 殿

事業を実施する飯田下伊那の事業所の所在地を記入

複数企業の関与する共同開発の場合は、代表者となる企業名のみ記載
(連絡先は中小企業のみ)

住 所 **飯田市上郷別府▲▲▲番地○**
 企 業 名 **株式会社**
 代 表 者 名 **代表取締役 飯伊 太郎** 印

[連絡担当者] 氏 名 **飯伊 次郎**
 所 属 ・ 職 名 **技術部 部長**
 電 話 **0 2 6 5 - * * - * * * ***
 F A X **0 2 6 5 - * * - * * * ***

代表者役職名、氏名を記入し、“代表者印”を押印

本申請について、問い合わせする窓口担当者を記入

ものづくり製品（試作）開発等支援補助金交付要綱第6条の規定により、次のとおり申請します。

事業名	赤外線半導体レーザーによるハンディ型建築用距離測定器の開発
総事業費	2,500 千円 プロジェクト全体規模把握のため、申請期間合計の総額 (=補助対象経費+補助対象外経費) を記入
補助申請額	800 千円 補助対象会費の2/3の額 且つ最大100万円を超えない額を記入 (千円以下切り捨て)
経費内訳	<p>1) 原材料費</p> <p>半導体レーザー他の投光部及び受光部部品購入 900,000円</p> <p>2) 機械工具費</p> <p>受光版切断用超音波カッター購入 300,000円</p> <p>3) 外注加工費</p> <p>受光版貼り合わせ 100,000円</p> <p>4) 技術指導提携費</p> <p>ビーム強度 測定費 200,000円</p> <p>5) その他経費</p> <p>現場テストの運搬費・設置費 100,000円</p> <p>合計 1,600,000円</p>

◆企業概要

補助対象経費を記入 (千円以下切り捨て)
項目が多い場合は別紙に記載

社内人件費、旅費、特許出願費は補助対象外。

事業内容	電子計測器製造業	資本金	10,000 千円
従業員数	●●名	創業年月	平成 5年 4月
主要製品	レーザー計測装置 60%	主要取引先	株式会社◆× 約30%
	レーザー計測装置 60%		×▲株式会社 約10%
	受託開発装置 20%		×▲株式会社 約5%

様式第2号

第2号様式で4枚以内にわかりやすくまとめる

追加の文章や、開発に関する写真や図を挿入する場合は別紙に添付してよい

事業計画書

事業名	赤外線半導体レーザーによるハンディ型建築用距離測定器の開発
実施内容	<p>【開発目的】</p> <p>従来の建築用距離測定器では、貸し領域のレーザー光を投光して、対象物での反射光を受光して距離を測定している。従来品では、直視しても外のないレベルに信号を落とし、測定距離が制限されてしまう。そこで本開発では、直視しても害のない赤外光と目標物を定めるための微弱な可視光を重畳することで、測定距離2Kmまでの正確な測定が可能な距離測定器を実現することを目的とする。</p> <p>【開発内容】</p> <p>1. 投光部の開発</p> <p>可視光レーザーと赤外光レーザーの信号を重畳して投光するが、それぞれの信号を干渉しないように波長帯の選択、制御方式や変調方式の検討などを実施する。</p> <p>項目としては以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none">・投光器の基本設計（波長選択）・投光器アンプの試作開発・投光器の試験／評価 <p>2. 受光部の開発</p> <p>信号光を受光するための、受光版と受光アンプを開発する。受光版は、赤外線だけを分離して信号のS/N比（信号／雑音比）を向上させるためのものである。</p> <ul style="list-style-type: none">・受光版の試作開発・投光器の試験／評価 <p>3. 連動テスト</p> <p>試作した投光部と受光部を組み合わせして、連動テストを実施する。最終的には、建築現場の環境下での特性試験も実施する。</p> <ul style="list-style-type: none">・開発組み合わせ特性テスト・建築現場でのテスト
共同開発企業 又は機関等	<p>(有)地場産精機 (株)長野製作所</p>

開発目的と開発内容を明記

<p>事業化・商品化 の見込み</p>	<p>[事業化見込み] レーザー式建築用距離測定器の市場規模は、◎億円である。(出处：▽▽協会統計) 現在弊社では、建築用距離測定器の20**年度売上が※億円であり、本開発に成功すれば 新商品として投入し、既存の販売ルートを活用して売上貢献が見通せる。 2Kmまで測定できるレーザー距離測定器は、業界他社も実現しておらず、業界への 大きなインパクトがあると思われる。商品化後の初年度売上は、□億円を目指す。</p> <p>[商品化見込み] 本開発が成功すれば、プロトタイプが完成することになる。プロトタイプからの追加費 用として100万円程度で基板の再設計と筐体設計を行い、測定器として商品化できる。</p>
<p>開発スケジュール</p>	<p>1. 投光部の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投光器の基本設計(波長選択)：6月/中～6月/下 ・投光器アンプの試作開発：7月/上～8月/上 ・投光器の試験/評価：8月/上～8月/下 <p>2. 受光部の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受光版の試作開発：9月/上～9月/下 ・投光器の試験/評価：10月/上～10月/下 <p>3. 連動テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発組み合わせ特性テスト：11月/上～12月/下 ・建築現場でのテスト：1月/上～2月/下
<p>特許・実用新案 (申請書を含む)</p>	<p>赤外及び貸しレーザーの重複工藤の基本特許は、2009年10月に出願済み(日、米)</p>
<p>事業実施に 関する課題</p>	<p>赤外光レーザーを建築物の測定に用いた例がなく、建築材料毎の反射率が把握しきれて いない状況にある。サンプルを集め、一つ一つ特性を確認する作業が必要となる。 また、赤外レーザーと可視レーザーの重畳においては、波長揺らぎや出力変動の影響を 極力抑止する制御方式の開発が求められる。</p>
<p>他の補助金の 受入・申請状況</p>	<p>無</p>
<p>特記事項</p>	<p>※貴社の得意とする技術などPRしたい点があればお書き下さい。</p> <p>弊社は、大手企業の研究所で世界初の☆☆用レーザー測定器の実用開発にプロジェクト リーダーとして立ち上げに成功した飯伊太郎(現代表)によりレーザー装置の研究開発 型ベンチャーとして平成5年に設立された。設立後は、数多くのレーザー距離測定器を 製造して実績を積んできた。第〇回の「なんしん起業家オーディション」で▽賞を受賞 し、その事業性にも高い評価を受けている。□年度の「南信ものづくりブランド」にも 弊社のレーザー測定器は選択されている。</p>

商品としての魅力を表現する。事業規模や売上等は、想定できる具体的な数字で記述

同内容での重複採扱は不可

事業実施上の難しい面をわかりやすく表現

※書ききれない場合は別紙にご記入ください。